保健体育科

みんなで楽しむサッカーの実現に向けて

授業者：澤田石　嵩　也

本校保健体育科が捉える「教科の本質」

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を身に付けることを本質とする。その資質・能力として、次の三つを大きな柱と捉える。

1. 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全についての理解、基本的な技能
2. 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、 他者に伝える力
3. 生涯にわたって運動に親しむとともに、健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度

（保健体育科教科経営案より）

みんなが考える

生徒は「どうやって空間をつくれば得点につなげられるか」を課題として話合い活動を行います。活発な生徒だけが進めるのではなく、運動に苦手意識がある生徒もみんなでどうしたらいいかを考えます。

タスクゲーム

話合いで出されたチームの作戦をもとに動いたり声掛けしたりしながらゲームします。得意な生徒は、自分だけでなく味方を生かしたり、フォローしたりしながら、チームでサッカーを楽しもうとします。

どう関われればよいか？

タスクゲームの後、グループで再度話合います。「ただ立っていると守備が付いてくるよ。どうしたらいい？」生徒の思考を促す発問により、生徒はボール保持者の位置を確認しながら両サイドを行き来するなど、更に自分の動きを工夫します。

授業を終えて

生徒の振り返りより

- 自分はシュートを決められないけど、味方がシュートを打てるように味方の位置に合わせてパスが出せるように頑張ってみた。
- パッとみたらフリーになっている人がいた。とりあえずパスしてみようと思った。守備の間にパスを出すのが楽しかった。

　学級全体の様子を見ると、これまで学習してきた中で気付いた自分にできるプレーや、自分がやりたいと思うプレーのイメージを明確にもち、そのプレーをゲームの中で生かそうとする姿が見られた。得点できたときに仲間と喜び合うだけでなく、違うチームのプレーにも称賛する様子が見られた。このように全員でサッカーを楽しむ姿は、本質に迫っている姿であったと感じている。

（授業者　実践報告書より）